令和4年度　学校評価表（中間）

三原市立大和小学校（校番20）

a 学校教育目標	夢や目標に向かって，自ら伸びる ともに伸びる児童の育成 （校訓） 自ら伸びる ともに伸びる	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】 自分を愛し，夢を語る児童の実現 【ビジョン】 児童，教職員，保護者が「夢や目標に向かって，自ら伸びる ともに伸びる」という教育風土がある学校 ＜めざす学校像＞ 「自ら伸びる ともに伸びる」という教育風土のある学校 ＜めざす子ども像＞ 「規律あるかかわり合いを通して，自ら考えともに伸びようとする子ども」 ＜めざす教職員像＞ 「児童を守り，育て，育む」ことを自覚し，実践できる教職員

評価計画					自己評価									改善方策	学校関係者			
	c 中期経営目標	d 短期目標	e目標達成のための具体的方策（大枠）	f 評価項目	指標	目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力	主体的な学びを実現する取組を通し学力の定着と主体的・対話的で深い学びを追究する	【授業改善による学力定着】 その学年で身に付けるべき学力を確実に定着させる	・45分間の授業で，基礎基本の力を身に付けるための授業改善【研究部】 ・児童の主体的な学びにつながる「問い」のある授業改善【研究部】 ・学び方の選択肢と自己決定のある授業改善【研究部】 ・教科書の文章を「読む」ことができる授業改善【研究部】 ・教材文等のことばに根拠を求める授業改善【研究部】 ・「聞く」ことを大切にし，ねらいを達成するためのペアやグループによる学習のある授業改善【研究部】 ・通過率40%未満の児童への具体的な対応がある授業改善及び「白宅タイム」の充実【研究部】 ・学習規律の徹底し，親和性のある学習集団づくり【研究部】【生徒指導部】 ・ねらいを達成するために，ICT機器等を活用した授業改善【研究部】	単元末テスト（国語，算数，社会，理科）の学年平均値が指標に示す点を超える教科数（20教科） 【評価時期】（1学期末・2学期末）	平均値 1・2年生（90点） 3・4年生（85点） 5・6年生（80点） 教科	20／20 教科	1学期末 11／20 教科 【55%】		【82%】	B	・単元末テストの学年平均値で，国語では4／6，算数では1／6，理科では4／4，社会では2／4の達成であった。国語は66.7%，算数は16.7%，理科は100%，社会は50%の達成率であり，特に算数に課題がある。 ・NRT学力テストでは，13教科中，11教科が全国平均以上であった。 ・NRTでの評定1・2の低学力層の児童が国語では27.8%，算数では23%，理科では19%おり，個に応じた支援をする必要がある。	・「できる・できそう・分かった」と児童が思える授業改善を行う。 ・それぞれの教科で取り組むことを共有化し，全学年で取り組んでいく。 国語・・・音読を1時間に2回以上入れる。デジタル教科書を活用する。（動画等） 算数・・・たしかめプリントを作成し，3回以上繰り返し取り組む。 理科・・・週末のプリント学習に取り組む。 社会・・・音読を1時間に2回以上入れる。 ・低学力児童の単元末テストの点数を表に入力し，個の変容を見取り，個に応じた有効的な手立ての蓄積をしていく。	○			・安心・安全な学校づくり，児童全員に居場所のある学校づくりを目標に，児童の実態を踏まえた取組が校長を中心に組織的に行われている。また，児童の意識や行動に変化が見受けられる。少しずつ改善の方向に向かっている。 日々の丁寧な対応を積み重ねてほしい。 ・学力差が気になる。「できる・できそう・分かった」と思える授業改善に継続して取り組むことと同時に，児童のつまずきの部分を把握したり，各教科を学ぶ楽しさを感じさせたりする等，さまざまな取組を行い学力向上を期待する。 ・総合的な学習の取組は，学習のゴールが明確で，児童の主体的な学びにつながる活動となっている。今後もじっくりゆっくり考えながら児童の主体性（本校でつけたい資質・能力）の育成につながる学習活動を展開してほしい。 ・授業改善に取り組むこととともに，授業の中でお互いに認め合う場を意図的に設定し，学級集団も育てていく取組を大切にしてほしい。
				児童質問紙よりアンケートによる調査 （あ）「国語の・算数の・理科の・社会の授業がよくわかる」教科ごとにより総合評価する （い）「授業では，課題や問題について自分の考えをノートやプリントに書いている」 （う）「授業では，課題や問題について自分の考えを話している」 （え）「授業では，自分の考え方や解き方と比べながら友達や先生の話を聞いている」 （お）「授業では，課題を解決するために，進んで資料を集めたり取材をしたりする」 （か）「ICT機器を使って，問題に挑戦したり，まとめたり，調べたりすることを進んでしている」 【評価時期】（1学期末・2学期末）	NRT学力テストの平均値が全国平均以上の教科数（13教科） 【評価時期 】（7月）	全国平均以上の教科数	13／13 教科	11／13 教科 【85%】										
					肯定的評価の割合	90%	83.1% 【92%】				・「授業がよく分かる，たのしい」と答えた児童の割合は，国語83.3%，算数77.2%，体育88.3%，理科88.8%，社会78%で，全体の平均が，83.1%であった。算数が低く，学年によって差があることが課題である。 ・「自分の考えをノートやプリントに書いている」と答えた児童の割合は，77.7%であり，1学年だけ達成し，その他の学年は85%未満になっており，課題である。 ・「自分の考えを話している」と答えた児童の割合は69.7%，「友達と比べながら聞いている」では，84.8%であった。話す方がより低く，聞く方が高い傾向にある。自分の考えを話すことに抵抗がある児童が多いといえる。 ・「進んで資料を集めたり取材したりしている」と答えた児童の割合は62.5%で課題がある。資料の集め方の工夫や，資料を集めることのよさを実感させる必要がある。 ・「ICT機器を進んで活用している」と答えた児童の割合は87.2%である。目標値以上の学年が半数ある。	・それぞれのアンケート項目に対して各学級の取組のベクトルをそろえる。どんな活動をしていくか具体的なイメージの共有化を図る。 ・研究の柱「問いをもつ」「自己決定の場の設定」「ICT機器の活用」の3つについて研修を行い，授業改善を図る。 ・単元構想シートの活用で，児童が主体的な学びをしていくための「問い」を考え，授業改善を行う。 ・「自己決定の場」・「ICT機器の活用」について，月に2回連絡会後に，低・高・特支グループで交流し，取組の共有化をする。 ・「ICT機器の活用」では，データを蓄積し，いつでもだれでも活用できるようにしていく。 ・アンケートで肯定的評価が低い項目「自分の考えをノートやプリントに書いている」では，何を書かせるか焦点化すること。児童が何につまずいているか見取り，それに対する手立てを行い考えを持たせていく。 ・アンケートで肯定的評価が低い項目「自分の考えを話している」では，課題解決の見通しを持たせたり，モデルを示したり，考えを持たせる工夫をする。話す場面では，ペアや小集団などの学習形態を工夫し，その中で自分の考えを話すようにしていく。	○			
						84.8% 【94%】										
						62.5% 【69%】										
						87.2% 【97%】										
豊かな心と親和性の高い集団	安心して学べる学習環境の基盤となる，規範意識の醸成を図るとともに，自他を尊重する心情・態度を育成する	各学年で身に付けるとともに，親和性の高い集団をつくる 【規範意識の育成】 児童に所属意識を持たせ，円滑な集団生活の基盤となる（規範意識・ルール・マナー等）を身に付けさせる	・生活のきまり，学習規律チェック表に基づく積極的な生徒指導を日常的に実施【生徒指導部】 ・生活や学習の場で自己決定する場の設定【生徒指導部】【研究部】	QUアンケートの結果 【評価時期】（5月下旬・11月下旬）	学級生活満足群に位置づく児童の割合70%以上の学級数	9／9 学級	0/9学級		0%	D	・9学級の学級生活満足群に位置付く児童の割合の平均は41．4%であり，70%という目標を大きく下回る。学習集団作りに課題がある。 ・1次支援（A）の割合も2～6学年5学級の平均が40．4%であり，50%以上という目標には及ばなかった。学習面，生活面両方の取組を進める必要がある。	・暴言や暴力，指導妨害などの事案には毅然と対応する。また，きまりを守っていないことについては早く対応し，生徒指導事案の未然防止を全職員で行う。 ・「できる，できそう，分かる」授業改善等を行えば生徒指導事案は減少するという考えをもち，毎日の授業づくりを行う。	○			・学級生活満足群に位置づく児童の割合が低い点が気になる。安心安全な学校づくりに尽力していることは理解できる。引き続き生徒指導の充実の取組をすすめてほしい。 ・生徒指導事案の未然防止の取組を時にはスピード感を持ってあたったり，粘り強く取り組んだりしながら，継続した取組が必要であると考える。
					1次支援（A）の割合が50%以上の学級数	9/9 学級	0/9学級		0%	D						
		【共感的な人間関係づくり】 児童に，他者とかかわり合う場面を与え，その中で，自己肯定感を高めさせるとともに，相手を大切にする心と態度を身に付けさせる	・全ての児童に，学校内（学校外も含めて）に学びの場がある取組【生徒指導部】 ・全ての児童が，困った時に学校の中に相談できる人や場がある取組【生徒指導部】 ・「聞く」ことを大切にした授業改善【研究部】【生徒指導部】 ・内面に迫る道徳科の授業改善【研究部】 重点項目 B「思いやり」（B－6・B－7） C「よりよい学校生活・集団生活の充実」（C－14・C－15・C－16） ・おもてなしの児童同士の交流の場がある学級活動【生徒指導部】 ・1校1貢献活動の実施【教務部】	児童質問紙によるアンケート調査 （あ）「学校のきまりやルールを守って生活をしている」 （い）「自分にはよいところがある」 （う）「自分のよさを周りの人に認められていると思う」 （え）「将来の夢や目標を持っています」 （お）「努力すれば，自分もたいていのことは出来ると思います」 （か）「地域のことが好きです」 （き）「困ったことがあったとき，先生や友だちに相談できる」 【評価時期】（1学期末・2学期末）	児童質問紙肯定的評価の割合	95%	90%		85%	B	・児童質問紙によるアンケート調査の結果，「学校のきまりやルールを守って生活している」について肯定的評価をした児童の割合は90%であり，児童のほぼが学校のきまりを守ろうと意識して生活していることがわかる。 ・自己肯定感に関わる（い）～（お）の項目については肯定的評価がいずれも80%台にとどまり，課題である。 ・「困ったことがあったとき，先生や友だちに相談できる」については，肯定的評価が74%と低く，安心して相談できるようになるよう取り組む必要がある。	・規範意識を高める取組を引き続き行い，ルールを守って生活することのよさを実感させる。 ・小さなことから児童のよさを認める声掛けを続け，自分のよさに気付けるようにしていく。また，異学年での交流の場などを利用して，児童同士でも認め合えるような取組を仕組む。 ・行事や学習の中で「やってよかった」「がんばったらできた」という思いを持てるように，自己選択やスモールステップで達成できるような場の工夫を行う。 ・児童の意思交流を行い，担任だけでなくすべての教職員で児童を見守り，相談できる体制を整えていく。また，児童同士のつながりを作っていく学級づくりを行い，困ったときには助け合える学級風土を育てる。	○			・コロナ禍においても，生活科や社会科，総合的な学習等で地域や社会とのつながりを大事にした学習活動を行っており，有効的である。 ・コロナの状況を見ながらではあるが，地域として関わることがあれば一緒に取り組んでいきたい。 ・自分にはよいところがある，将来の夢や目標をもっている，地域のことが好きと捉えている児童の割合が高い。これまでの取組の成果が表れている。 ・児童に「できた」と実感させる取組や，「できているよ」「すごおいね」等，価値づけていく取組を継続してほしい。
						90%	81%									
						85%	81%									
						95%	83%									
						95%	85%									
						90%	101%									
						100%	74%									
健やかな体	生涯にわたって健康を 保持増進し，豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する	【生涯にわたって健康づくりをしよとする健康教育の充実】 【生涯にわたって運動しようとする心情の育成につながる授業改善】 児童に確かな目標を持たせ，生涯にわたって健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現しようとする心と体を育成させる	・感染症を防ぐための取組の実施【健康安全部】 ・生活リズムを整える取組の実施（大和3部会）【健康安全部】 ・楽しく，運動量がある体育科の授業改善【健康安全部】 ・自分の目標に向かって挑戦することができる体育科等の授業改善【健康安全部】 ・児童同士が「見る」ことを大切にした体育科の授業改善【健康安全部】 ・自己決定の場がある体育科の授業改善【研究部】【健康安全部】	児童質問紙よりアンケートによる調査 「体育の授業は楽しい」 「感染症防止のためにマスク着用，手洗い，3密を防ぐことをしている」 「※アンケート」 【評価時期】（1学期末・2学期末）	肯定的評価の割合	「体育の授業」95% 「感染症」100% 「※アンケート」100%	「体育の授業」91% 「感染症」95.4% 「※アンケート」		96%	B	児童質問紙によるアンケート調査の結果，「体育の授業は楽しい」という質問に対する児童の肯定的評価は91%「感染症防止のためにマスク着用，手洗い3密を防ぐことをしている」という質問には95.4%どちらも9割を超えたが目標値に至らなかった。 ・体育の授業においては，学年や学級によって数値に差が見られる。 ・感染症対策においては，肯定的評価は高い数値を示している。マスク手洗いは日常的にも取り組む姿が見られる。課題としては，通学方法としてスクールバス利用者がほとんどをしめるなかバス内の私語が，児童反省の中で出されることが多く継続的に取り組む必要がある。	・体育の授業の充実を図る。 ・体育の準備運動や準備運動後の活動に運動遊び（アクティブチャイルドプログラムに記載されている運動遊びなど）を行う。 ・体育の授業の中で個別に目標を持たせて活動を行う。 ・ICTを活用した指導を充実させる。 ・感染症対策においては，学校で統一した5つのきまりをもとに，なぜ対策をする必要があるのか児童に示したり，掲示物を活用したりしながら徹底できるよう指導を進めていく。	○			・コロナ禍での体育で工夫が必要であるとは思うが，体力の向上させる取組も学校全体ですすめてほしい。全体的に姿勢を保持する力もつけていく必要があると思われる。
働き方改革	教育課題に適切に対応する学校体制を再構築するとともに，学校行事及び総合的な学習の時間の内容を精選することを通して，児童に向き合う時間数を確保するとともに，職員の健康を維持する。		教育課題に適切に対応する学校体制を再構築するとともに，児童に向き合う時間を確保する【教務部】 ・行事等の内容を精選し，行事に係る練習時間数を減少する。 ・総合的な学習の時間の内容を精選する。 ・各部が担当する行事を精選する。 ・関係機関・団体と連携する取組について，学校が担う業務を軽減する。 ・定時退校を実現する。 ・見通しを持った業務を行う。	○市の方針「勤務時間上限の目安時間」「上限の目安時間及び特例的な扱い」に記載されている内容を達成する。 「上限目安時間・45時間/月を超えない。・360時間/年を超えない。 「特例的な扱い・720時間/年を超えない。・45時間/月を超える月は，1年間に6月まで。・連続する複数月のそれぞれの期間について，1カ月当たりの平均が80時間を超えない。 【評価時期】（9月末・1月末）	勤務時間外の在校時間 全教職員年間360時間以内，月45時間以内の割合	100%	100%		100%	A	・4月から10月までの時間外勤務時間の平均時間は，42時間46分である。毎月の学校経営会議において，下校時刻を検討し，教材研究や業務にあたる時間の確保に務めた。また，毎月の学校衛生委員会において，業務改善できることはないか出し合い，実施してきた。しかし，月によっては，生徒指導事案の取組等で時間外勤務時間が増えたり，職員によっては80時間近くまで時間外勤務したり，80時間を超える時間外勤務となる職員もいる。	・引き続き学校行事等の精選や業務にあたる時間の確保に努めたり，準衛生委員会で業務改善できることの協議を行う。 ・教職員の状況や業務内容等を見ながら，協力できる体制をつくっていく。	○			・職員一人一人が心身ともに健康であることの必要性が大前提である。引き続き働き方改革の視点を持ちながら，職員が一丸となって取組をすすめてほしい。

【自己評価 評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）<100
C：60≦（もう少し）<80　D：（できていない）<60

イ：自己評価は適正である。
ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。